

経営比較分析表

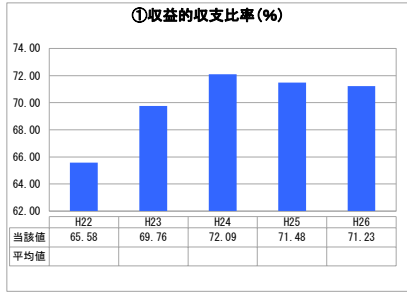
石川県 志賀町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	6.76	108.03	3,240

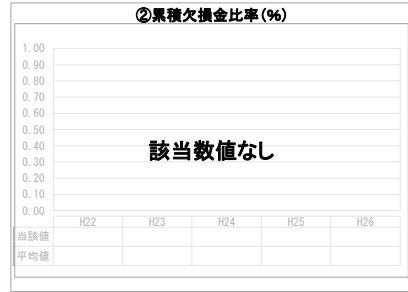
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
22,032	246.76	89.29
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,479	0.58	2,550.00

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成26年度全国平均

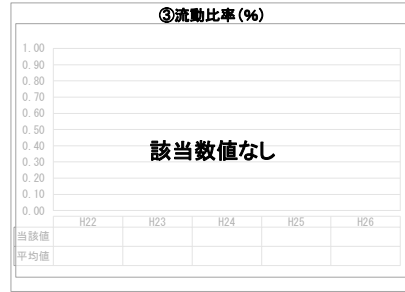
1. 経営の健全性・効率性



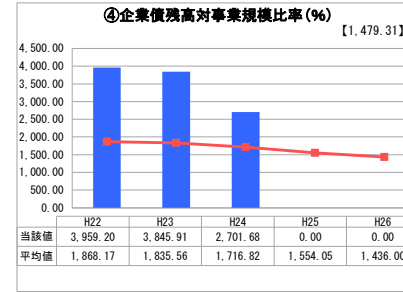
「単年度の収支」



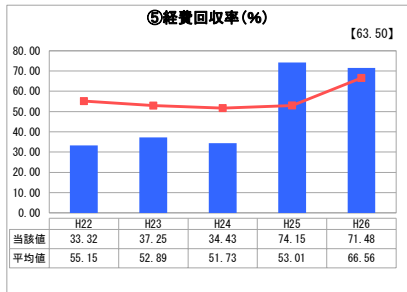
「累積欠損」



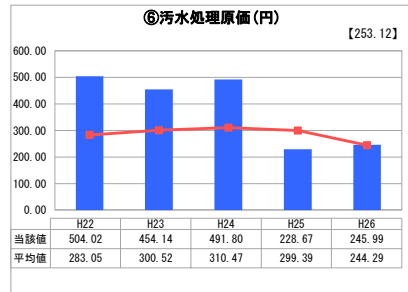
「支払能力」



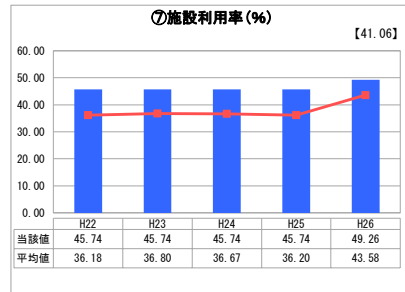
「債務残高」



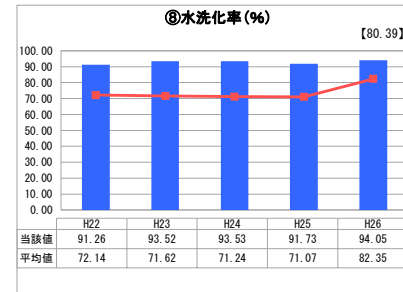
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

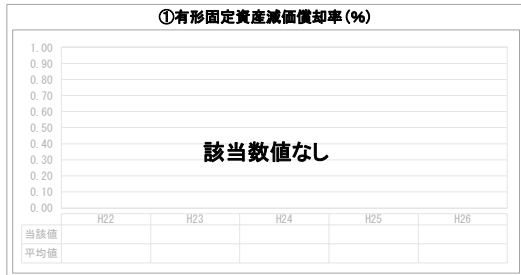


「施設の効率性」

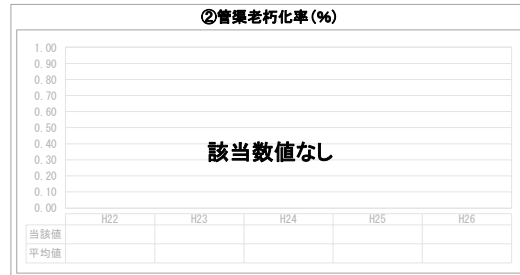


「使用料対象の捕捉」

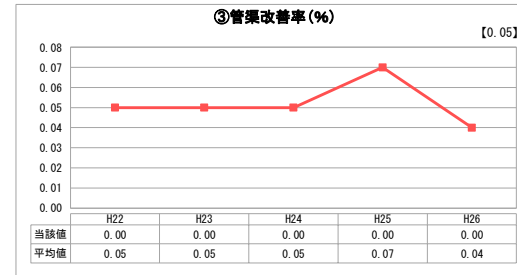
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率が現状70%の水準で推移しているのだが、予定する公債償還額は毎年緩やかに増加していく傾向にあることと当該区域の人口減に伴う有収水量の減少で総収益が減少することより、この指標は毎年悪化していくと思われる。料金改定による収益増を考慮するのだが、この地域はすでに旧志賀地域の料金より高く、これ以上の料金増加はかなり難しい状況にある。

経費回収率及び汚水処理原価に関して言えば、類似団体平均とほぼ同じであるが、有収水量が今後大きく増加しないため、やはり維持管理経費の削減が必要である。

施設利用率及び水洗化率に関して言えば、この地域はほぼ終了しており、これ以上の増加は難しいのだが、今後も啓発を進め、有収水量の増を目指したい。

2. 老朽化の状況について

まだ事業完了してからの経過年数はそれほど経っていないため、管渠の更新はまだ行っていないが、更新に備え、健全な経営基盤の構築を推進していく。

全体総括

この区域は事業完了済みであり、接続率も高い。しかしながら、地域的に人口の増加は見込めず、減少に歯止めが効かない。そのため収益の増加は現状では難しい状況にある。早急な維持管理経費の見直しに着手しなければならない。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。